# 地震 どう備える

## 東日本大震災 1週間

東日本大震災で、避難所で夜を過ごした釧路市民。上川管内でもいざという時に備えは欠かせない＝12日、釧路市生涯学習センター

東日本大震災の発生から18日で1週間。上川管内は地震が比較的少ない地域とされているが、絶対に起きないとは言い切れない。いざ地震が起きた際にあわてないように、できることから準備しておきたい。（立野理彦）

### 家の診断や家具の固定 屋内での安全確保第一

■「減災」徹底を

「まず減災。自分の家は安全か確認してください」。旭川市消防本部防災課の石川秀世主幹は言う。減災とは災害による被害をできるだけ小さくする取り組みのこと。1993年の阪神大震災では、死者の八割に相当する約5千人が木造家屋の倒壊で亡くなった。

地震に耐えられるかどうかの目安となるのは住宅が建てられた年。1981年に基準が大きく変わったため、それ以前の住宅は地震に対して弱い家が多いとされる。自治体は耐震診断や耐震改修工事の助成などをしており、北方建築総合研究所（旭川）の高橋章弘主査（都市防災）は「リフォームの際に合わせて検討してほしい」と話す。もっとも81年以降の建物も全く壊れないということはない。

■ガラスに注意

家の耐震性に問題がなくても油断は禁物だ。「地震が起きた際、倒れた家具の下敷きとこまめに点検や整備を行うようにしたい。

災害が発生した場合、本格的な救援活動が始まるまでは通常3日程度かかるとされ、非常持ち出し品＝表＝が重要になる。「非常」と付くと仰々しいが、北方建築総合研究所で防災対策の普及活動を担当する西川実奈子主任は「大半は100円ショップやスーパーで購入できる」と話す。

非常持ち出し品のうち基本品目の大半は100円ショップで手に入る。大型スーパーで購入できる保存缶入りのクラッカーやビスケットは缶入り乾パンの代わりになるし、非常用持ち出し袋も使っていないリュックサックで代用できるという。

### 持ち出し品 忘れず点検

安価で入手可能

西川主任は「取り出しやすいように牛乳パックで間仕切りを作ったり、ぬれないようにフリーザーパックに入れるなどの工夫をするとより使いやすい」とアドバイスする。

非常持ち出し品

| 基本品目（あらゆる家庭に必要なもの） |
|---|
| 缶入り乾パン、ペットボトル入り飲料水、懐中電灯、ろうそく、ライター、携帯ラジオ、万能はさみ、軍手・手袋、ロープ、救急袋（毛抜き、消毒薬、脱脂綿、ガーゼ、ばんそうこう、包帯、三角巾、マスク、常備薬・持病薬など）、レジャーシート、サバイバルブランケット、簡易トイレ、タオル、ポリ袋、トイレットペーパー、ウエットティッシュ、現金（10円玉）、ガムテープ、油性ペン、筆記用具 |
| **必需品・貴重品類**（個々の事情によって異なる） |
| 現金、車や家の予備鍵、予備メガネ・コンタクトレンズ、携帯電話、預金通帳、健康保険証、運転免許証など |

※このほか、女性用品や高齢者用品、赤ちゃん用品など個々の事情によって用意する

（人と防災未来センター作成のチェックリストを基に作成）

■安否のメモも

では、地震が起きたらどうすればよいのか。何より大切なのは命。急いでテーブルや机などの下に潜り込み、身の安全を確保する。火の始末は「揺れが大きい場合、おさまってからで構わない」（消防本部）という。建物がゆがんで出入り口が開かなくなることがあるので、揺れの合間をみてドアや窓を開け、逃げ道を確保することも重要だ。

揺れがおさまったら、速やかに避難する。破損したガラスなどで足をけがすると移動することがままならなくなるので、足の保護は忘れずに。近くに靴がない場合は、周囲にあるもので足を覆う。

避難先や安否情報を書いたメモを家に残しておくと、救助・捜索活動の手助けとなる。また、復旧後の火災を防ぐため、ブレーカーを落としておきたい。

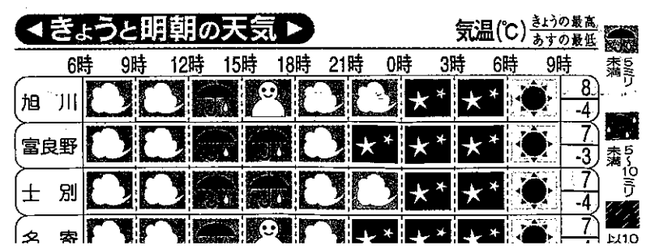
■頼りは「家族」

地震に限らず、災害が起きると移動することがままならなくなるので、足の保護は忘れずに。近くに靴がない場合は、周囲にあるもので足を覆う。

避難先や安否情報を書いたメモを家に残しておくと、救助・捜索活動の手助けとなる。また、復旧後の火災を防ぐため、ブレーカーを落としておきたい。

■頼りは「家族」

地震に限らず、災害




## 「していた遊び」次々

### 絵本作家堀川さん旭川叢書に収録 45人から聞き取り

新刊「旭川、こどものあそび点景」を手にする著者の堀川真さん。それぞれの話に得意のイラストも添えた

旭川市中央図書館が編集し旭川振興公社が発行する、旭川叢書の第33巻「旭川、こどものあそび点景」が刊行された。市内在住の絵本作家堀川真さん（46）が、幼少時代を旭川で過ごした45人に尋ねた「していた遊び」の聞き書きだ。20日には堀川さんによる刊行記念講演会も開かれる。

堀川さんは、「北海道わくわく地図えほん」（北海道新聞社）などが代表作の絵本作家で、各地で遊びのワークショップを開くなど「子どもの遊び」にも造詣が深い。

今回、堀川さんは90代から小学生まで、知人など身近な人から聞き取った。「たわいのない遊びの話は、たわいもなく消えてしまう。語ることで引き継がれていくのではないか」と狙いを話す。

取材した人の多くは「特別な遊びは何もしてない」と答えた。でもさらに話を聞くと「学校に忍者が来た」「水たまりの干上がった跡で小銭をひろい集めた」など面白い話が次々と出てきたという。「子どもは遊ぶ生きものだ、と感じた」。堀川さんの率直な感想だ。A5判、204ページ。1554円。旭川市内の主な書店と同公社（市役所第2庁舎）で販売中。問い合わせは、同公社☎0166・22・7198へ。

◇

刊行記念講演会「旭川、こどものあそび80年」は20日午後2時から、市中央図書館（常磐公園）で。堀川真さんが本に書ききれなかった話や本をつくりながら感じたことを話す。無料。直接会場へ。問い合わせは、同館☎0166・22・4174へ。

## 当麻蟠龍隊 3年ぶりの舞

### 解散乗り越え あす旭川公演

復活公演を呼び掛けた能沢さん

蟠龍まつりで踊りを披露する当麻蟠龍隊（町提供）

【当麻】町に残る龍伝説にちなんだ踊りを披露してきた当麻蟠龍隊が3年ぶりに復活する。踊り手の不足などで一時は解散に追い込まれたが、新たにメンバーを迎え、20日午後6時半から旭川市公会堂（常磐公園）で開かれるダンスイベントに出演することが決まった。メンバーは「今後の活動の弾みにしたい」と意気込んでいる。

当麻の蟠龍伝説は、先人たちが大空を飛び回っていた2匹の夫婦龍を守り神としてあがめ、その龍たちが休むところが当麻鐘乳洞とされていることに由来している。町の至るところに龍をモチーフにしたモニュメントもある。

当麻蟠龍隊はこの伝説にちなみ、毎年8月に開かれる蟠龍まつりで長さ約20メートルに及ぶ龍の模型を手に踊りを披露してきたが、2008年8月に踊ったのを最後に解散していた。

蟠龍隊の最後の踊りを見て、その迫力に圧倒され、解散に心を痛めた町内の団体職員でダンスのインストラクターの能沢利佳さん（33）が「伝統を残そう。いっしょに舞台公演を」と活動再開を呼び掛け、昨年3月から準備を進めてきた。

当麻蟠龍隊の隊長、長谷川新さん（39）は「今回の公演を機会に新しいメンバーが増えて活動が広がってほしい」と期待する。

イベント名は「CHANGE OF MIND」（実行委主催）。当日は、第1部で旭川と当麻のダンスチーム7組が踊りを披露した後、第2部で蟠龍伝説にちなんだ芝居とダンスの場面に蟠龍隊が出演する。振り付けや演出、脚本を能沢さんが担当した。

入場料は大人2千円。50 6時 務局 8・

## 2011統一地方選

### 「農水産物に付加

知事選 木村氏が

【名寄】24日告示の道知事選に、民主、社民、国民新各党推薦で立候補する元農林水産省企画官の木村俊昭氏（50）が18日、市内で集会を開き、支持者約300人が出席した。

木村氏は「1次と2次産業が連携して、農水産

1次産業、医療問題の解決